

BEST AVAILABLE COPY

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭60-107938

⑬ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和60年(1985)6月13日

H 04 J 13/00

Z-6914-5K

H 04 L 5/02

6914-5K

25/02

Z-6866-5K

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 2値信号多重化方法

⑯ 特 願 昭58-214051

⑰ 出 願 昭58(1983)11月16日

⑱ 発 明 者 進 藤 康 史 東京都港区虎ノ門1丁目7番12号 沖電気工業株式会社内

⑲ 出 願 人 沖電気工業株式会社 東京都港区虎ノ門1丁目7番12号

⑳ 代 理 人 弁理士 山本 恵一

明 細 書

1. 発明の名称

2 値信号多重化方法

2. 特許請求の範囲

2 値信号伝送路での第1の2値信号と第2の2値信号の多重化方法において、前記第1及び第2の2値信号より周期が短かくかつアムプリーティの小さいパルス信号と前記第2の2値信号との論理積をとり、前記論理積により得られる信号と前記第1の2値信号との排他的論理和信号を伝送することを特徴とする2値信号多重化方法。

3. 発明の詳細な説明

(技術分野)

本発明は、2値信号伝送路での2つの2値信号の多重化方法に関する。

(背景技術)

従来の多重化方法の一例を第1図に示す。この方法により2つの2値信号A及びBを多重化する場合、2値信号A入力端子1、2値信号B入力端子2及び同期信号発生回路3の各々に対し、セレ

クタ4の切替により時間的な割り当てを行ない、割り当てられた時間に各状態を2値信号伝送路5を介して伝送する。そして受信側では同期信号検出回路8に合わせてDフリップフロップ6、7の論理により2値信号AとBとを識別し、それぞれの信号を出力端子9または10に実現するようになっている。しかしながら、このような従来の多重化方法では、上述のごとく割り当てられた時間に各状態を伝送するので、各々の割り当て時間を識別する為の同期信号もあわせて伝送しなければならないという欠点があった。

(発明の課題)

本発明は上述のごとき欠点を除去するためなされたものであって、同期信号の伝送が不要な2値信号多重化方法を提供することを目的とするもので、以下詳細に説明する。

(発明の構成及び作用)

第2図は本発明の方法を適用した一実施例のブロック図であり、第3図(a)~(f)はそのタイムチャートである。

第2図において、21は2値信号A入力端子、22は2値信号B入力端子、23はイクスクルーションOR（排他的論理和）ゲート、24及び31はANDゲート、25はパルス発振器、26は2値信号伝送路、27はローパスフィルタ、28は波形整形回路、29は微分回路、30及び32は単安定マルチバイブレータ、33は2値信号A出力端子、34は2値信号B出力端子である。2値信号B入力端子22とパルス発振器25はANDゲート24に接続され、ANDゲート24の出力はイクスクルーションORゲート23の1つの入力に接続されている。一方、2値信号A入力端子21はイクスクルーションORゲート23の他方の入力に接続されている。イクスクルーションORゲート23の出力は2値信号伝送路26を介して受信側と連結される。受信側において伝送路26はローパスフィルタ27及び微分回路29に接続され、ローパスフィルタ27の出力は波形整形回路28を介して2値信号A出力端子33に接続される。一方、微分回路29の出力は単安定マルチバイブレータ

30と接続されると共にANDゲート31の1つの入力に接続されている。ANDゲート31のもう1つの入力単安定マルチバイブレータ30の出力と接続されている。そしてANDゲート31の出力は単安定バイブレータ32を介して2値信号B出力端子34と接続される。

上記のごとき構成を有する本実施例の動作について説明すると、2値信号B入力端子22の状態（第3図(a)）が「1」のときには、パルス発振器25からのパルスの小さい繰返し信号（第3図(c)）がANDゲート24の出力となり、この出力信号と2値信号A（第3図(b)）との排他的論理和信号（第3図(d)）を2値信号伝送路26を介して送信する。一方、2値信号B入力端子22の状態が「0」のときには、ANDゲート24の出力は0となり、2値信号Aをそのまま2値信号伝送路26を介して送信する。

この様にして多重化され伝送路26を介して送信側に伝送された信号は、ローパスフィルタ27により、パルス発振器25からのパルス成分を除

去した後、波形整形回路28で波形整形され、2値信号A出力端子33にて2値信号Aが再現される。また多重化された信号は、微分回路にて信号変化分が取り出され、この信号で単安定マルチバイブレータ30をトリガする。ここで単安定マルチバイブレータ30及び32の出力時間幅はパルス発振器25の繰返し周期の1.5倍に設定しておくものとする。従って、微分回路29の出力がこの時間以内に続いてあったときのみ単安定マルチバイブレータ32がトリガされ、その場合、2値信号B出力端子34にて2値信号Bが再現される。

以上説明したように、本実施例では、ローパスフィルタやパルスの連続性を検出すること等により2つの信号を再現するので、同期信号の伝送が不要となり、従って同期確立までの時間や同期はずれがない利点がある。

（発明の効果）

本発明によれば、同期信号の伝送が不要となり、同期確立までの時間や同期はずれがない利点がある。

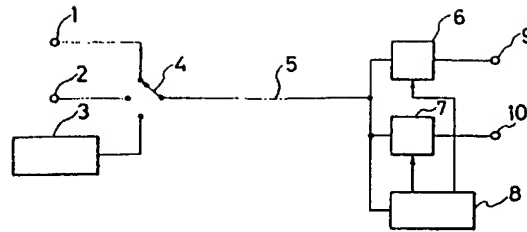
り、光ファイバを使用した2値伝送路の多重化等に利用することができる。

4.図面の簡単な説明

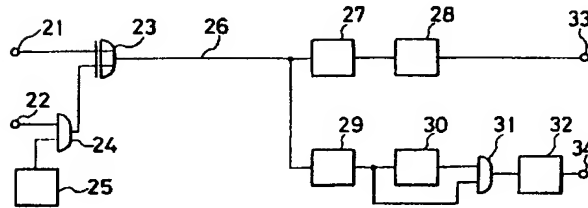
第1図は従来の多重化方法を示す図、第2図は本発明多重化方法を適用して一実施例を示す図、第3図(a)～(f)は上記実施例のタイムチャートである。

1, 21…2値信号A入力端子、2, 22…2値信号B入力端子、3…同期信号発生回路、4…セレクト、5, 26…2値信号伝送路、6, 7…Dタイプフリップフロップ、8…同期信号検出回路、9, 33…2値信号A出力端子、10, 34…2値信号B出力端子、23…イクスクルーションORゲート、24, 31…ANDゲート、25…パルス発振器、27…ローパスフィルタ、28…波形整形回路、29…微分回路、30, 32…単安定マルチバイブレータ。

第 1 図



第 2 図



第 3 図

